INTERVIEW

今、アントレプレナーシップが求められる理由

すべての日本人が身につけたい考え方として「アントレプレナーシップ」が注目されています。
富山市の未来共創拠点施設「Sketch Lab(スケッチラボ)」で講義を行うお二人に、必要とされる背景、今後の展望を聞きました。

いとう・よういち
東京大学経済学部卒。1990年に日本興業銀行などを経て、2015年からはヤフーに入社し、次世代リーダーの教育を行うYahoo!アカデミアの責任者を務める。2021年に武蔵野EMCを開設し学部長に就任。富山市で行われるビジネスプランコンテスト「スケッチオーデション」の講師を務める。

武蔵野大学アントレプレナーシップ学部（武蔵野EMC）学部長
伊藤 羊一氏

アントレプレナーシップとは。

「高い志と倫理観に基づき、失敗を恐れずに踏み出し、新たな価値を創造していくマインド」と、武蔵野大学アントレプレナーシップ学部（武蔵野EMC）で定義しています。平たく言えば、リーダーシップを持ってイノベーションを起こす姿勢のことです。これは、何もないところから何かを生み出そうというものではありません。世の中に存在するものを組み合わせ、1を10や100に発展・進化させる力です。「起業家精神」と和訳されるので起業を目指す人に必要な素養と思われるかもしれませんが、新しい価値を生み出す力は、社会人にも学生にもなくてはならないマインドです。

今、必要とされる理由は。

日本は失われた30年から未だ浮上できず、この間にアメリカでは巨大IT企業がいくつも誕生しました。インターネット元年を境に、正解を求めて改善を重ねて正確なものづくりをする時代から、自分の思いに従って正解のないものを作る時代になったのに、変化についていけなかったのです。今、アントレプレナーシップが必要と言われるのは、新しい価値を創造する力がないと日本の成長が望めないからです。

アントレプレナーシップを育む方法は。

一人ひとりがスキルやマインドを鍛えることが大切です。話を聞いたり異文化から刺激を受けたりしながら、世の中で疑問に感じていることを自分の力で考え、それを周りの人に伝え、対話から気づきを得て実践する。この経験を継続的に繰り返すことで、創造性や探究心、判断力、リーダーシップが育まれます。周りの人は夢へ踏み出すために背中を押す環境を作らなくてはいけません。たとえ失敗しても、この方法は上手くいかないと分かったと捉えればいいのです。日本は失敗を許さず、リスクの高いものに挑戦しづらい場所でした。今、それをぶち壊すときです。

システム思考の活用も求められる時代です。

ここ1、2年でアントレプレナーシップという言葉が理解されるようになり、不確実な時代に新しいことに挑戦する精神、マインドセットが必要であることが伝わり始めました。そして複雑化する世の中で、広い視野で物事を見るときや、複数の事象を組み合わせて考えるときに役立つと言われるのが「システム思考」です。問題の一部だけに注目せず、全体像を見ることで解決を図る思考方法。アントレプレナーシップを持つ人が、力を発揮するために学べば相乗効果が得られます。

これからの時代に必要な力とは。

AIの活用が加速すれば、従来の知識や経験に基づく単純な"正解"の価値が相対的に低下します。これからの時代のビジネスは、喜怒哀楽や幸福度、人生の価値など、色んなものを形にすることが大事になります。自分にはない視点を持った仲間、学習歴が、AIには導き出せないアイデアを生み出してくれます。

富山県で新しい価値が生まれるには。

講義をしていると、保守的な県民性であると自分たちから口にされます。しかし地場産業が強く、多くの起業家を輩出している背景を考えると、ほんの数十年前まではアントレプレナーシップを持った人がたくさんいたはずです。今後は産学官連携によるオープンイノベーションの促進が不可欠です。そこから一企業や一個人では作れなかった新たな価値が富山県に生まれるでしょう。

とみた・よしかず
1972年千葉県生まれ。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科修了（システムエンジニアリング学）。企業への新規事業開発やイノベーション創出の支援を行うknots associ-ates 代表取締役CEO。2020年より現職。スケッチオーデションの総合プロデューサーを務める。

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 教授
冨田 欣和氏